

小腰筋、腸腰筋及方形腰筋ノ比較解剖學的知見補遺  
、並ニ人ニ於ケル同名筋ノ一ニノ畸形ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/37952">http://hdl.handle.net/2297/37952</a>

# 十全會雜誌

第二十二卷第三號(第百三十四號) 大正六年三月一日發行

## 原著及實驗

此一篇ハ大正五年七月廿五日金澤醫學專門學校解剖學教室ニ於テ開カレタル第二十四回日本解剖學會ノ演說ニシテ演者ノ寄セラレタル草稿ヲ其マ、掲載セシモノナリ斯ノ爲我十全會雜誌部カ多大ノ紙面ヲ割愛セラレタルニ對シ爰ニ深キ謝意ヲ表ス尙ホ他ニ二三有益ナル演說アリシモ草稿未着ニテ共ニ掲載シ得サリシハ予ノ大ニ遺憾トスル所ナリ

大正六年二月 司會者 金子治郎誌

小腰筋、腸腰筋及方形腰筋ノ  
比較解剖學的知見補遺、並ニ  
人ニ於ケル同名筋ノ一二ノ畸  
型ニ就テ

會員 大串菊太郎君

濱者ハ固有脊筋ヲ研究スル傍、犬、狐、擬猴類、猿猴類  
及人等ニツキテ表題ノ諸筋ヲ檢シ次ノ成績ヲ得タリ

甲、小腰筋ハ

一、グルーベルノ云ヘルガ如ク人ニ屢欠除スルモ他ノ哺乳動物ニ於テハ諸學者ノ唱フルガ如ク欠損セズ

二、小腰筋ハ各種哺乳動物ニ於テ終末胸椎及腰椎上半部ヨリ起ルモ此ヨリ下方ニ起始スルコトナシ、犬狐ノ如キニ於テハ内外兩頭ヲ有シ此ヨリ以上ニハ外頭ヲ欠クラウベル、コプシユノ記載ハ諸學者及余ノ見ザル異例ニ屬ス

三、停止ハ骨盤無名線ナルモノニ三ノ動物ニ於テハ此停止腱ニ猶下部腰椎ヨリ來ル腱膜及腸骨筋膜附著ス此狀態ハ元始的ニシテ余ノ見タル人ノ一例ニ一致シ若シ此主部退化シテ腰椎附著或ハ腸骨筋膜ノ何レカ一方ノミ殘留發育スル場合アリト假定スレバ余ノ見タル腰椎停止ノミヲ有スル一例ト腸骨前下棘ニノミ停止スル一例ノ由來ヲ説明シ得ベシ

四、神經ハ第三第四腰椎神經ノ枝ヲ普通トスレドモ場合ニ

ヨリ此神經ノ出ル体節ノ高サヲ上下シ得ルモノナリ然レドモ胸神經ノ此ニ加ハルハ單ニアテーレスニノミ認メタリ

### 乙、腸腰筋

ヲ構成スル大腰筋及腸骨筋ハ作用上相離ルベカラザル關係アリテ胎生上ニモ股神經ヲ圍ム胚芽ヨリ異化スルモノナルガ故ニハツレル及ヒユルトル等ガ *M. iliaco-psosae s. iliopsoas* ト命名セルハ當ヲ得タリ

一、大腰筋ノ起始ハ小腰筋起始ノ下方ニ連レル腰椎体及横突起ヨリ來リ下等ノモノニハ立派ニ内外二列ニ排列セル肉齒ヨリナル二頭ヲ備フルモ、外頭ハ高等ノモノニハ存在セズ又本筋發育ノ度ハ小腰筋ト反比シ股神經根ニヨリテ貫通セラル、コト常ナリ

二、腸骨筋ノ起始ハ腸骨窩内面ヲ普通トシ稀ニ第五腰椎横突起或薦骨側部ノ腹面ヨリ來ル筋束ヲ合スルコトアリ又人ニ於テ同様ニ第五腰椎横突起ヨリ起リ大腰筋脊側ヲ過ギテ本筋ノ外半部ニ加ハレル異型ノ筋束ヲ二回實驗セリ是恐ラク下等動物ノ狀ヲ反覆セルカ或ハ大腰筋横突起始ノ分裂セルモノナルベシ

三、腸腰筋停止ハ凡テ大腿骨小轉子ナリ  
四、腸腰筋ノ神經ハ股神經根ノ枝ナリ

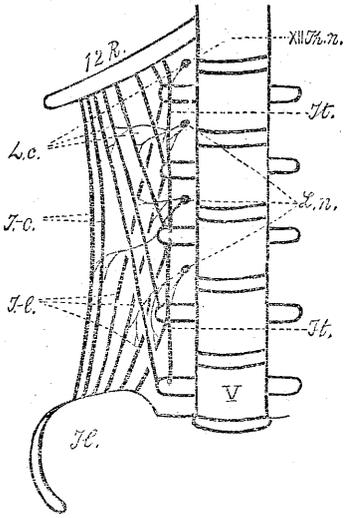
### 丙、方形腰筋

一、ハ人及人形猿猴ノ場合ト他ノ猿猴類以下ノ場合ト大ニ異ル、後者ノ際ハ一方ハ椎体他方ハ肋骨或ハ横突起先端ヨリ起ル内外二頭ヲ有シ且ツ二乃至三個ノ横突起ヲ越テ下方ノ横突起ニ附著スル四乃至七個ノ筋節ヨリナル故ニ其形方形ヲナサズ寧細長ニシテ恰モ小娘ノ組髮ヲ見ルガ如ク方形腰筋ナル名ニ叛ケリ人ニ於テハ反之ルシユカノ區別セルガ如ク腸肋部、腸腰部及腰腸部ノ三部ヨリナリ大ニ其趣ヲ異ニシ名又其形ニ添フ、此兩極端ヲ連絡シテ前者ヨリ後者ノ發達ヲ説明シ得ルモノハアテーレス、猩々ニ見ル狀ニシテ其處見ニヨレバ下等ノ方形腰筋ノ最下ノ筋節ノ内頭退化シ同時ニ外頭發達シテ遂ニ人ノ腸肋部及腸腰部ニ變ジ此ヨリ以上ノ筋節ノ内頭又消失シテ外頭ノミ發達シ總テ肋骨ニ起始シ得ルニ至レバ即後來ノ腰肋部ヲ生ズルモノナルベシ如斯變化ハ動物ガ起立歩行シ得ルト同時ニ身体軀幹及骨盤ノ前後徑減ジ横徑却テ増加スルト共ニ以前單ニ腰

椎ノ彎曲運動ノミヲ司ルヲ以テ足レル元始狀態ニ加フルニ更ニ脊柱ノ側彎運動ヲ營ムベキ必用ニ迫ラレ其起始ヲ變ジ横徑ヲ増シ以テ其目的ニ叶ヘン爲メナルベシ但シ神經分佈ノ狀ヨリ云ヘバ如斯假定ヲ以テ満足シ難キガ故ニ其最後ノ斷定ハ之ヲ將來ニ讓ラントス

二、方形腰筋ノ神經ハ下二三ノ胸神經及上四乃至六個ノ腰神經腹枝ノ枝ナリ只アテールス猩々ノ如キハ胸神經ノ外上二個ノ腰神經ノミ此ニ預ル是畢竟腰椎數ノ減退ニ關連セル二次性ノ異變ナリ

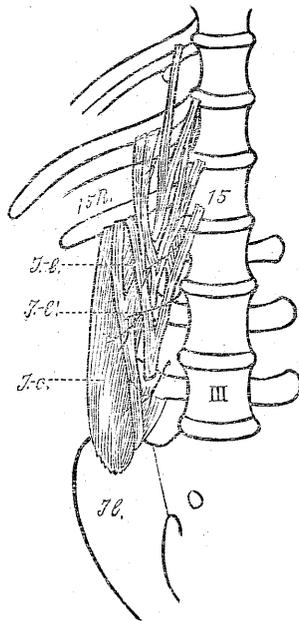
第一圖



人ノ方形腰筋及其神經(但シ神經分佈ノ狀ハアイスレルニ從フ)畧圖

12R. 第十二肋骨  
 V. 第五腰椎體  
 II. 腸骨  
 I. 腸腰部  
 I.-c. 腸肋部  
 I.-l. 腸腰部  
 It. 中間束  
 Lm. XII Th. n. 第十二胸神經  
 腰神經  
 L.-c. 腰肋部

第二圖



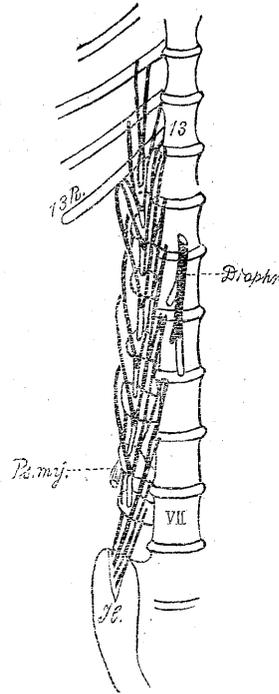
アテールスノ方形腰筋及其神經畧圖  
 15R. 第十五肋骨  
 15 第十五胸椎體  
 III 第三腰椎體  
 II. 腸骨  
 I. 腸腰部

I.-1. 腸腰部

I.-c. 腸肋部

神經ハ單ニ黑線ニテ表ハセリ

第三圖



クリゾートリキスノ方形腰筋畧圖

13R. 第十三肋骨

13 第十三胸椎体

VII 第七腰椎体

II. 腸骨

Diaphr. 横隔膜右椎体起始

Ps. maj. 大腰筋外頭

### 組織固定試験第一報

會員 塚口利三郎君

固定法ハ組織學研究上至要ノ問題ナルガ故ニ古來之ニ關スル業績甚ダ多シト雖然カモ現今尙緊要ナル研究題目タルヲ失ハザルナリ殊ニ輓近細胞學進步ノ趨勢ニ鑑ミ固定作用ノ真相ヲ知悉センコトハ一日モ看過ス可ラザル緊急事タルヲ覺エシム蓋シ之ヲ度外視シテハ組織學上如何ニ微妙精緻ナル構造像モ之ニ生物學上重要ナル意義ヲ附與スルコト能ハザレバナリ然ルニ此問題タルヤ實ハ固定法初マリテ以來ノ懸案ニシテ今日吾人ノ之ガ解決ヲ必須トスル如ク古人モ亦恒ニ然カ考ヘタルナリ從テ古來學者ノ此方針ニ向テナセシ努力ハ決シテ鮮少ナラザルモノアリシモ從前ハ此種ノ研究ニ最モ必要ナル可キ蛋白質化學上ノ智識並ニ固定溶液ノ理化學的性狀及能力ニ關スル智識共ニ不足セシ爲メ未ダ満足ナル答解ヲ與フルニ由ナカリキナレバ碩學 Flemming, Bitschli, Altmann 其他名流諸家ノ不斷ノ努力ハ一般組織學者ヲシテ固定法ノ謠歌者タラシメタリト雖他面 Berthold, Schwarz, Taubnik, A. Fischer